

中勢用水地区の農業

中勢用水地区の農業の特長は、^{すいとう}水稻(お米)を中心に、水田で畑のように^{こむぎ}小麦、大豆などを育てたり、畑での^{やさい}野菜づくりなど、いろいろな作物が作られています。

① 水稻（^{あ の つ}安濃津ロマン）

^{つ あ げ い}JA津安芸のプライベートブランド米で、農家が大切に育てた「コシヒカリ」を「安濃津ロマン」という商品名で^{はんばい}販売しています。^{せいのゅう}清流安濃川の水とあたたかい土地に守られて、すくすく育てられた元気なお米です。



② お茶

三重県の北中部、^{すすかさんろく}鈴鹿山麓でお茶が作られるようになったのは、今から千年以上前のことです。

中でも^{かめやま}亀山は、きれいな水とあたたかい^{きこう}気候であることから、古くから県内有数のお茶どころとして知られています。



③ いも（^{げいのう}芸濃ずいき）

^{げいのう}芸濃ずいきは、サトイモのくきの部分^{いせべつかいどう}を大きく育てたものです。伊勢別街道から京都に運ばれたことから、京料理の^{しよく}食材としても使われています。平成18年には三重県から「^う美まし国・^{でんとう}三重の伝統^{やさい}野菜」に選ばれました。



④ 花木（三重サツキ）

三重県で植木が作られるようになったのは、明治の初めごろからです。

特産品のサツキは大正時代から始まり、その後改良されて、「三重サツキ」と名前がつけられました。

三重県はサツキ類の生産量が全国の約40%もあります。

特徴として、花は中くらいの大きさで、花びらは厚く、きれいなピンク色で、冬になると、葉がきれいに紅葉する、などがあげられます。

毎年5月終わりごろから、ピンクの花がさきます。



⑤ 津市のブランド「つぶっこ」

津市の農林水産業をもっと元気にするため、ブランド品目としている13品目

（こんにゃく、自然薯（やまいも）、いちご、キャベツ、ずいき、茶、梨、花しょうぶ、原木しいたけ、たけのこ、すぎ、小女子、あさり）です。

